

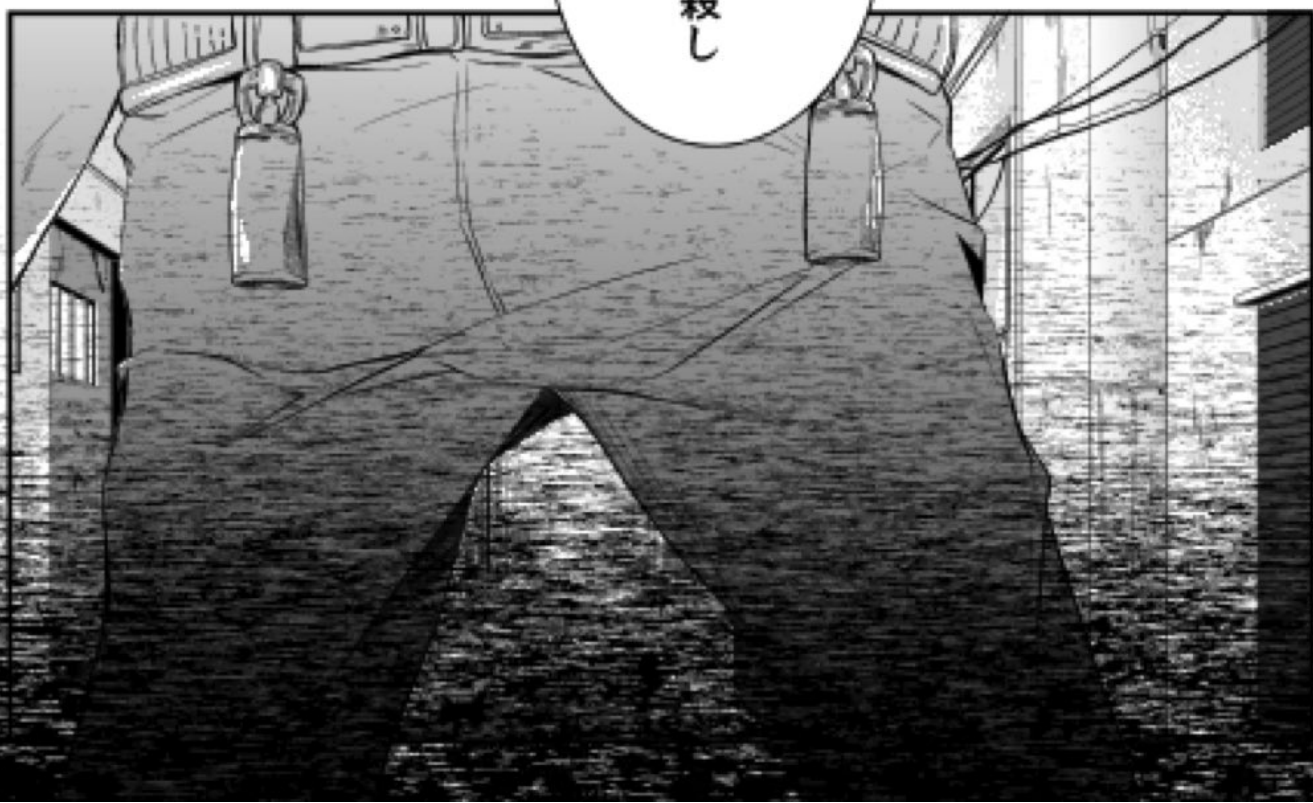


熟れた世界の
首を聞かせて

MY HERO ACADEMIA Todoroki Shoto FAN BOOK *...sorry for ADULT ONLY! thank you.

R18

よう
ヒーロー殺し





クソ親父はどんな面
すんだろうな？

俺が左を使わずに
おまえを捕まえたら



生かす
| 価値なし

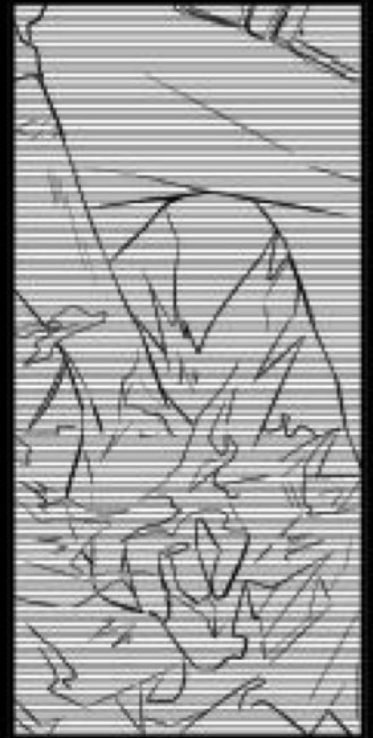


轟くん!!





保須の一件で
轟くんの個性が
暴走した



ヒーロー殺しとの
戦いで「左」を使わず
劣勢に立ち



限界を超えた
氷結を使い続け
たため

重度の低体温症に
おちいった



緑谷くん
今日は何で
戻されましたか？

「俺にかまうな」です



一度目は
「近づくな」

二度目が
「何が目的だ」

だとすると…



おそらく轟くんの
トリガーは

『拒絶』です

体温調節の限界を超え
心肺停止となった彼は
一命を取り留めたものの
未だ目覚めない

非常に危険な
状態です

医療的には
これ以上の処置は
ありません

現状を
見守るしか…

治療は成功している
致命的な外傷も
脳波にも異常はない

なのに彼は
目覚めない

氷結能力が
コントロールを失い
自発的な熱生産を
拒んでいた

あとは患者の
体力次第です





彼の精神的問題が
影響してるとみて
間違いないでしょう



ご協力感謝します
ヒーローリーブ



いいえ、身を呈して
ヒーロー殺しと
戦った勇敢な
少年の為です



うわっ!?

鏡から
声から!

ああ
忙しい所
申し訳ないね



私の生徒
飯田と緑谷です

飯田天哉
です!

緑谷出久
ですっ



ヒーロー
リーブ…



私は個性の性質上
人前に出る
事がないのです

っ!?



姿を見せずに
申し訳ないに

!

彼は「タイムリープ」
その名の通り
時間飛躍の持ち主さ

時空を超えて
瞬間的に過去や未来に
異動させる特殊能力

故に身の安全を国が
保護しているんだ



アングラ中の
アングラ
ヒーロー…

よく国が許可
してくれました

えっへん！

そんなすごい
個性はじめて
聞きました

自由自在な
時間移動…

偉大なヒーローを
輩出する雄英高校

そして犯人逮捕に
貢献した少年の
危機です

私の個性が役立つ
のなら協力は
惜しみません

それに

私は君たちの
ファンでもある



体育祭
見てましたよ

将来有望な
ヒーローたちだ

そして

そんな君たち
だからこそ
「耐えられる」と
私は思う

諸君、

ここから先は
ここにいる者
オールマイト

それ以外は
他言無用だ

リープの言う通り
轟の意識が
戻らないのは

本人の深層心理に
関係してると
思われる

そしてそれは
間違いなく

彼の左の能力
「炎熱」だ

僕も…
少しですが
聞いています

そういえば
体育祭で
言っていました
戦闘に於いて
熱は使わないと



良くも悪くも
ヒーロー殺しと
対峙し死に
直面した事で

氷結の暴走へと
繋がったんだろう

僕があ
のトーナメント
戦で負けたから……

いやそれを言うなら
俺の方が手も足も
でなかった

おまえ達の
せいじゃない

あの場で轟に左を
使わせられる者は
いなかっただろう

それ程に
あいつの能力は
抜きんでていた

今の状況を
至極簡潔に
言うなら

彼は駄々を
こねている

何か一気に
なかつたいく

拗ねて
いるのさ

轟が炎熱を
封印している理由は……

だがそれを
受けとめなければ
今回みたいな事を
繰り返すだろう

雁字搦めで
身動きが取れない
糸をほどくため

リリースに協力を
要請したんだ

私は対象者の
身近な持ち物から
道を作り

意識だけでなく
身体ごと時間移動
させる事が出来ます

身体ごと……！
校長先生は
何をするつもり
ですか？

轟くんと何

飯田、緑谷

……



おまえ達の
どちらかが
過去に飛び

ぶん殴ってでも轟を
連れ戻して来い



プロヒーローではなく
僕らに白羽の矢が
たったのは

対象者と面識の
ない者はトラベル
出来ない事

公にできないの
路地裏の戦いの
当事者だったからだ

・リープは7回まで
(対象者・トラペラーの体力によって誤差あり)

・トラペル中の身体は仮死状態になり
大きな身体的負担を要する

・リープ先でおった怪我・死は反映する

・飛ばされる時空はほぼランダムである

・対象者に大きなストレスが生じると
強制送還される場合がある

・限界までのタイムリープを行ったものは
2度と対象者・トラペラーになれない

またタイムリープは
かなりデリケートで

不確定要素が
非常に多い事が
知れた

死……!



飯田はまだ
両手の固定が
取れないという

緑谷、轟は
おまえに
執着している

よく考えろ
これはおまえの

つまり失敗すると
轟くんはこのまま戻って
こないかもしれない
という事ですわね



行きます



轟くんは
真っ先に現場に
駆けつけて僕たちを
助けてくれました

今度は僕たちが
守る番です

これまで3回
馬鹿正直に事情を
説明してみました

やはりやり方を
変えた方がいいと
思います

彼の誓約は強固です
まるで轟くん
そのものだ――

やっかいな事に
轟くんの「問題」は
強制送還トリガーと
まさに直結していた

順序良く話を
して説得すれば

左への意識を
変えてくれるのでは
という楽観は消える

彼が何に飢え
何を求めているのか

何を恐れ
何に支配されて
いるのか

トリガーが
「拒絶」だと
分かったのは
幸いとしましょう



…君もだいぶ
疲労がたまっ
ているでしょ
う

次にそなえ
て少し休ん
だほうがいい

はい

608

轟 焦

轟救出まで 残り4回



お兄ちゃんだれ？



…焦凍くんは
ここで何を
してるの？

…かくれてる

え？

お兄ちゃんそこに
いたらお父さんに
見つかるから

こっちに来て



そっそう
お母さんの…っ
って何
言ってるの
僕—!?

今は
出かけてるよ



子供!?

お兄ちゃんの
お友達？

それとも
お母さんの
お客さん？





多分



やりたくないって
言うてぶたれるし

だから
かくれてた

それは……
誤解だよ

1111で誤解を解いてほ

僕は
エンヂヴァアと
話をした事が
あるけど
君の事とても
自慢していたよ

焦凍くんの個性は
すごくヒーローに
むいてると思う

未来が変わってくるかもしれない

氷も炎も
両方を
鍛えれば

オールマイト
にだって
負けない
強さだよ

お父さんは
それが
解るから

君の個性を
伸ばしたくて
稽古してるんじゃないかな？

おまえもあいつと
同じことを言う





「お前は
オールマイトを
越える義務がある」

「常に完璧でいろ」

「そのために
作った仔だ」

こんな小さい子に
エンデヴァー!!

違うんだ轟くん
僕が言いたかった
のは――

お母さんは
帰ってこない
俺の左が
みにくいから

いけない
轟くん!

俺がなりた
かったのは……

俺がなりたいのは
オールマイトの
敵じゃない

さわるな
嘘つき!

ああなんて

嘘つきー!

悲しい別れた

重度の
低体温の意識は
錯乱・幻覚と
言われている

轟少年が
無意識の中で
抗っているの
かもしれない

4歳で個性が発現し
5歳には過度の
英才教育…

エンデヴァー
さんも無茶を
する

個性を否定
しないようにと

…あせって
しまいました





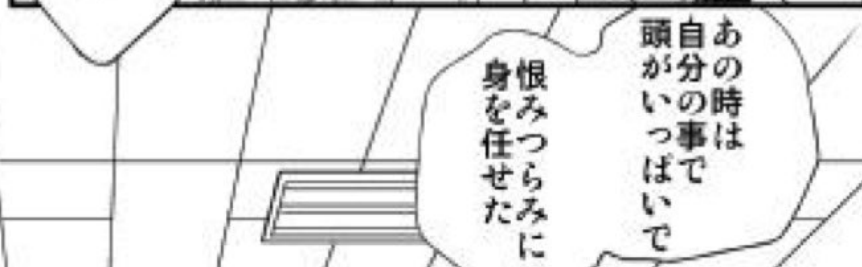


ちよちよっ

顔をあげてよ
飯田君!

何言っ
んだ

情けない



あの時は
自分の事で
頭がいつばいで

恨みつらみに
身を任せた



僕の身勝手が
君たちを巻き込み
血を流させて
しまったんだ



まだ
そんな風に
思ってるの?

それに最後は
君が助けて
くれたじゃ
ないか



変わりたい

変わるべきだと
思う!

けれど僕では...

轟くんを
救い出すには
役不足なんだ
とも思う...



君はもう何度も
過去に飛び
ポロポロだ

僕が招いた災いだ

本来なら
俺が—

責任をとるのは
僕であるべきだ



この期に及んで
こんな事を君に
言うのは酷だけれど

轟くんを
救ってくれ



彼にありがとうと
言わせてくれ……!



本当は
僕が
不安なんだ

対策や状況は
先生方がプロの
眼から判断して
くれるけど

つまりはこれって
友達になりたいって
事でしょ？

……？



えーとつまり信用して信頼されて自分の深い悩みでも話せる関係が第一条件の気がするんだ

…親友の様な？

確かに轟くんは左に対する拒絶の原因だったな

校長先生が言っていた…



駄々っ子！



そうなるよ先生や…失礼だけど大人の視線よりも

飯田のアドバイスが聞けたらなって思ってたんだ

俺の……？



君はクラス全体を良くまとめているから

人を公平な目で見る僕たちの委員長じゃないか

だから力を貸してほしい

そして轟くんが起きたら二人で怒ってやろうよ

心配させ
るな、と？

緑谷くんやはり君にはとうていかなわない

そう！
「勝手するな」ってね

轟くん 君も彼に何かを感じていたんだろう？

ここは
あたたかい

だから

とと

早く 戻って来い

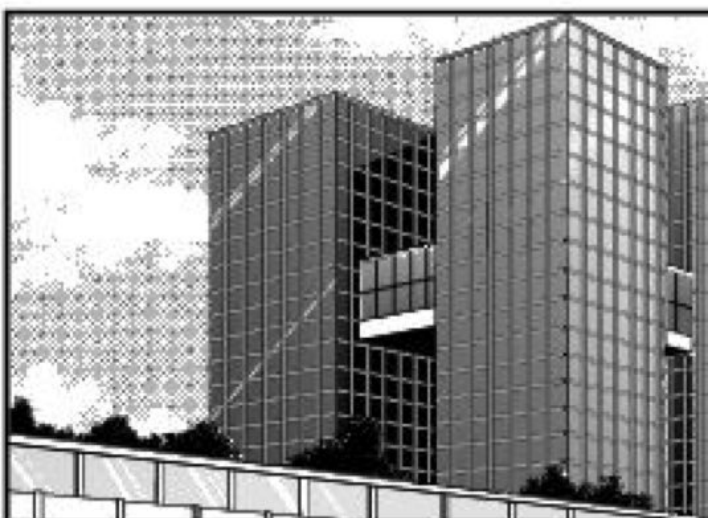
熟れた世界の音を聞かせて



そういや
見てねえな次
疑似演習だろ

ねえ轟くん
しらない？

ありがとう
探してみる



男の友情って
やつだね！

最近、緑谷って
よく轟を
探してるよな

あいつ等
そんな仲
良かったっけ

緑谷ヒーロー
オタクだ
からな

いろいろ興味
あるんじゃない？





そろそろ
着替えないと
遅れるよ

と…轟くん!



きっと先生の
だれかだよ

この時間よく
ここで昼寝してんだ

誰かが飼ってんの
かもな俺も偶然
見つけたんだが

その猫
どうしたの?
雄英に迷い込む
なんてないよね





今までの
反省を活かし

よく話しかける
事から始めた



はやく行こう
授業遅れるよ



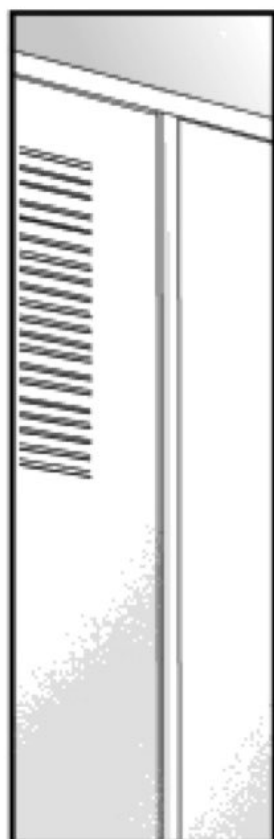
ささ感



それになんか...

悠長にしている
場合ではないけれど

今までと同じことを
しては駄目だ



猫より犬派

ウィットに
富んでいる

こうして話を
してみると彼は
意外によくしゃべり

洋食より和食

朝は少し弱くて
辛い物が好き



温度調整だよ

調整はしねえと
氷結とのバランス
がとれねえんだ

戦闘に於いて
左は使わねえけど



だから全く
使つてない訳じゃ
ねえんだよ

いざって時に
熱膨張起こし
てりゃ
人命救助も
クソもねえ
からな

確かに

高熱の爆風で
二次災害も
起こりかねない



あせりは禁物



彼は彼なりに
考えている



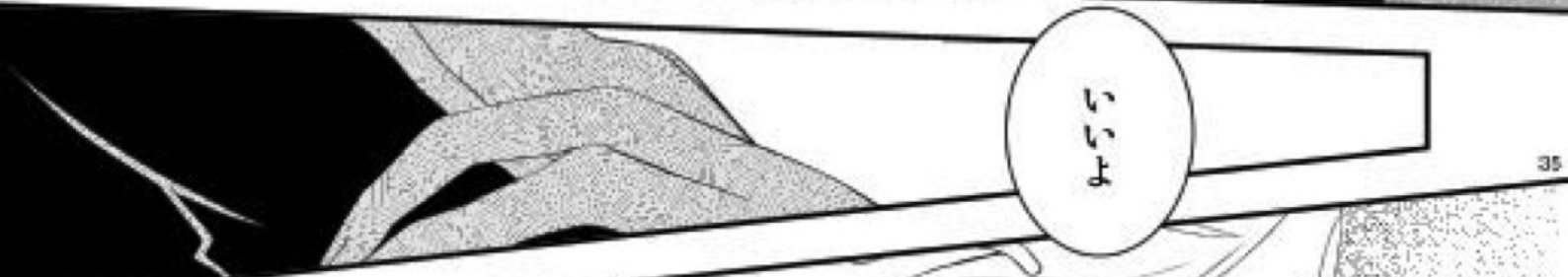
なに？



無意識に
何て事
をー！！

わーっ
ごめん！！

ぼ
ぼ



ささ



好きなかだけ触れよ
火傷なんかしねえし



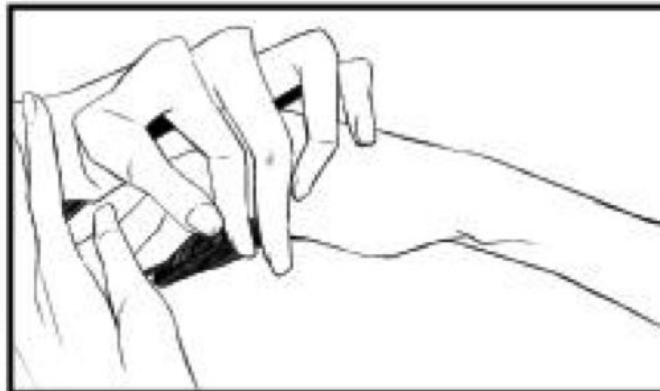
しぐさが
意味深と言っか

これが
自然なのかな

顔の距離が
近いというか



あ…
ありがと



あと彼は少し

くときりせ
がある



喜んでる場合じゃ
ないのに——





俺をさがした？



轟くん
忘れ物あった？

一緒に帰ろう





なんで?



つ……え

おまえよく
俺の事見てるよな



なんでって……
ていうかそんな
別にみてないし!

普通だし!



俺の居場所を
聞きまわって

息せき切って
かけてくる

それが
おまえの普通?

それはっ



うそだ



まさか





仲良くしようか



やだ

いやだ



お願いだ
轟くん

ぬいて

ゆび
抜いて……っ



緑谷？



ちがうんだ

そんなつもりじゃ
僕はただ…



君の炎の…っ

…つう

ごめん僕は

ちがう、
ごめ…



は

僕はただ
君に



そういう事か



おまえも

俺を見ては
いなかったんだな

うあッ



いた…ッ

ぬがッ

ぬがッ

さぞや滑稽
だったろうな

ぬがッ



ちがっ…

おのッ

おのッ

ずっと
たのしかった

アアッ



轟くん
やめ…っ!

うアッ



反応してるけど

やめて
いいの？

やめ…



はっ、何なの
おまえ
酷くされると
燃える性質？

それとも
ムリヤリが
好きなのかよ



変態じゃねーか

あつぶねーな



ンアッ

あ

いいぜ
お望み通り



ひどへこじやるす



待って……

とどろき
くん……



もう俺に
関わるな

——気持ち悪い



は……っ



はあッ

は

ゲホッ

緑谷くん!?

どうした
大丈夫か!

げほっ
げほっ
げ……えっ

どうした

先生!
緑谷くんが

何でも
ないんです

大丈夫です

こんなの何でも
ありません！

何でもって

怪我してるのか
何か……っ

その時のことは

誰にも
言えなかった

けれど残った
「痕跡」で先生は
察したんだろう

何も聞かず一人に
してくれた事が
ありがたかった

リーブ質問が
あります

なんだい

何でも……
ありません！





自分で
分かって
いるだろう

そんな状態では
とても無理だ

何度も
拒絶され

今回の事で
君は心身ともに
疲れきっている



無理だ

無理じゃ
ありません

もうやめ
なさい

何故です

君は充分頑張った
ここから先は
私たちに任せるんだ

今回は本当に
うまくいった

もう少し
だったんだ

だから次も僕が
行くべきです

だって
じゃあ他の誰が
行くと言うんです？



…轟くんは
オールマイトが
思っている程

強くも器用でも
ありません

僕なら
大丈夫です
次こそきつと

解らないのか

何がです！



笑えるわけ…
ないじゃないか!!

っ

君いま全然
笑えてないじゃないか



何何何何
でででで

随分良さそう
だったもんな？

嫌 だ !!

スキモノ

周囲の意見を
押し切って強引に
過去に飛んだ僕は

ものの数分で
強制送還された



先生方は今必死に
打開策を練っている

轟くんの家族にも
連絡をするようだ



限られた一回を
あんな形で
終わらせるなんて

オールマイトが
言ったとおり

僕が行くべき
じゃなかった



また俺に
抱かずに
来たのか

情けない
体がすくんで
何も言えなかった

あんなまるで
敵でも見るような
眼に耐えられなかった

逃げ出したいと
思ってしまった



今回の轟くんの
トリガーは

なんだったんだ？

！
彼は……

と言う事は
「拒絶」はして
ないって事だ

嫌悪していた
かもしれない
けど

あの口ぶりでは
また僕と……
しようとしたん
だよ

……

大体今までハラハラ
だったけど空が何故
このタイミングで
つなぐの？

前にもあった
僕の体力が
衰えてた時だ

なぜ同じ時空に
飛ばされた？

僕が「あれ」に
支配されて
いたからだ

タイムリーフは
繊細だ

強い思念が
あればかならず
影響される

一度目が体育祭
だったのも彼と
一番言葉を交わ
した場面だから
じゃないのか

無意識にその場を
選んだから
じゃないのか

だとしたら！

僕だ

今回のトリガーは
轟くんじゃない

僕の「拒絶」が
轟くんを追い
出したと
言う事だ

だとしたら

——緑谷……出久くん？

っはい、
あの……

焦凍の姉の
轟冬美です

お姉さん!?

今回の事で
焦凍が迷惑をかけて
ごめんなさい

危険を承知で
焦凍を助けようと
してくれたのね

ありがとう

だいたいの方
事情は先生方
から聞いたわ



うちは4人
兄弟なの
だけど

私たちは「個性」の
教育を受けて
いないの

お父さんは並みの
「個性」では満足
しなかったのよ

満足だなんて
そんな……っ

それまでは結構
どこにでもいる
家族だったのよ？

豪快な父と
優しい母と
やんちゃな
兄弟で


焦凍の事も
ちよつと器用で
でも甘えたな
末っ子だなんて
くらい

仲も良かったの！

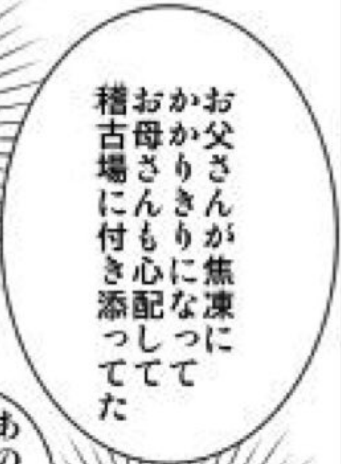
でもあの子が
4歳になって

「半冷半熱」の
個性が発現
してから


すべては
しまつては
変わって



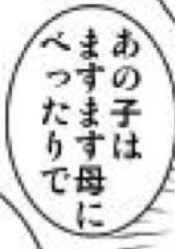
：エンデヴァーの
英才教育が
始まったんですね




お父さんが焦凍に
かかりきりになって
お母さんも心配して
稽古場に付き添ってた



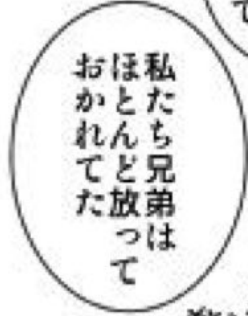
来なさい焦凍
おまえにはやる
べき事がある




あの子は
ますます母に
べったりで




おまえは
あの子らと
違うんだ




私たち兄弟は
ほとんど放って
おかれてた



毎日泣きべそ
かいて父に
連れられて
行くのを



私たちは
見ないふりを
したの



おねえちゃん



今日もお父さんと
稽古あるんでしょ

あんたそんな
暇ないじゃない



なによ焦凍
また泣いて
るの？

僕も
いつしよに
あそびたい

また
本よんで



僕がいこやだ

お父さん
こわいよ…



何言ってるんのお父さんよ
あんたがお父さんもお母さんもお母さん一人じめ
してるんじゃない

私たちだって
もつとお母さんと



焦凍…





焦凍

ごめんね……

焦凍！

こっそり稽古を
見に行った時

あの子がどんなに
つらい目にあつて
のか知つたの



なのに私は
あの子の手を
驚いてあげる事が
出来なかつた



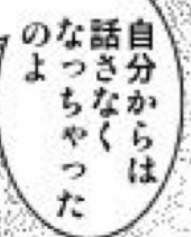
あの子があなたに
自分の事を話して
なんて思ひも
しなかつた



毎日嬉しそうに
見てた
オールマイトの
動画も



幼稚園での
事も何も



自分からは
話さなく
なつちやつた
のよ



だから



：気持ちか
ついて行か
ない事も
あります

ありがと



その少し後に
火傷の事があつて
お母さんが病院に
入つてから

焦凍は泣か
なくなつた



このよ

私ねいま小学校の
教員をやってるの

強い個性に触まれる
子供が少しでも減る様に
悩みを聞いて
あげられる様に

すみませんっ



あまり
フレンドリーな
感じでは
ありません
でしたけど...



oooooooooooooooooooo



焦凍にして
あげられな
かったから...

せめて生徒には
出来る限りの事を
してあげたいわ

轟くん
だ



そんな事
ありません
今の話を聞いて

お姉さんはずっと
轟くんを見守って
いたんだと解ります


轟くんも
きつとそれを
感じてるけど...

駄々っ子とは
本能的に
得ていた


君のことを
こんなな思っ
てるじゃないか
いるじゃないか

君はぜんぜん
孤独でもないし
雁字搦めになる
事もない





焦凍をよろしく
お願いします

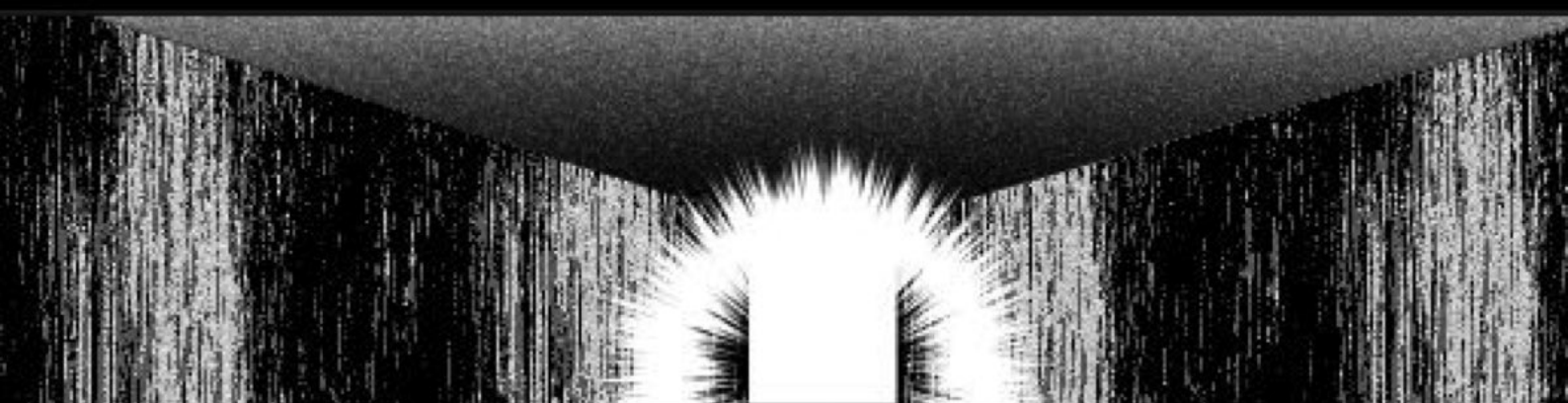


最後のチャンス
を僕にいただけま
せんか

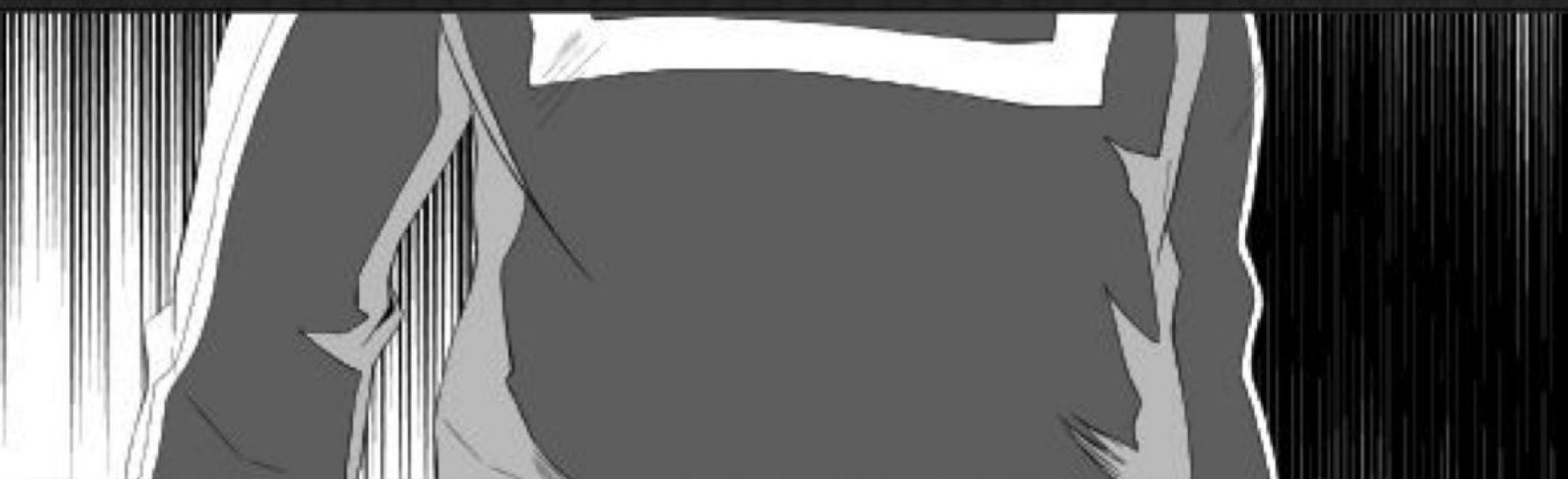
頭で考えることじゃない 言葉で説き伏せることじゃない



「殴ってでも連れ戻せ」まさにその通りです先生



「君いま全然笑えてないじゃないか」失敗におびえてましたオールナイト



事はいたってシンプル 僕は友達を連れて帰るだけだ





今回の体育祭
両者トツブクラスの
成績！

「ここ」しか
ないだろ！

緑谷

対 バーサス

轟！





轟くんは
中・長距離戦

そして
カウンター

焦るな
落ち着け

冷却には
限界がある



悪かったな
緑谷

もう充分だ

熱^{あつ}などなくても
俺は闘^{たたか}えると
奴に証明できた

終わりに
しよう

どこを
見てる……!



君は何を
見てるんだ

僕はまだ
倒れちゃいないぞ



体育祭の
緑谷さんの活躍
私も見てたわ

…なんだか少し
解る気がする

迷うことなく
真っ直ぐ先を見て
ヒーローに憧れ
目指してる



何言ってるんだ

ポロポロなのは
おまえの方だろ



おまえ…!?

そうやってひとりで
ポロポロになる事が

努力だと思ったら
大間違いだ



本当にひとりに
なった事も
ないくせに…!
冬美さんの想い
にも向き合えない
くせに

いつまで般に
閉じこもるつもりだ
馬鹿野郎!



飯田君や
麗日さんにも…

クラスの皆や
僕にだって

ヒーローを目指す
讀れない思いがある



焦燥が昔に
置き忘れて来て
しまったもの

ヒーローになる事と
お父さんを見返す事は
決して同じ事じゃない

それに早く
気付いて欲しいのよ

ムカツクな

冬美?

なんだ金でも
つかまされたか

悔しい

悔しい

飯田君や
先生

冬美さんと
約束したんだ



何言っ
てんだ
おまえ

.....?

ハキ

君の眼に僕が映らない

ねえ

震えてるよ
轟くん





炎熱を
否定するのは

君自身を
否定すると
言う事だ

傷つくのが怖くて
考える事が面倒に
なったの

泣くことに疲れて
自分から手を
伸ばせなくなったの

君はまだ
泣きべそかいてる
子供のままだ

だまれ



全力も出さずに
本気でトップを
捕るつもり?

エンデヴァーを
見返す事

完全否定する事

自分の誓約に
捕らわれて
ばかりの君に
なんか


僕は負けない

黙れ!


お前に何が解る

俺は
親父に――


知らないよ!




君が何も話してくれないから



僕を拒絶ばかりするから



力になりたかった
受け止めたかった



でも今は悔しいばかりだ！



ぜんぶ君の
力じゃないか!!



絶対に
あきらめたり
しない!

110キ
110キ

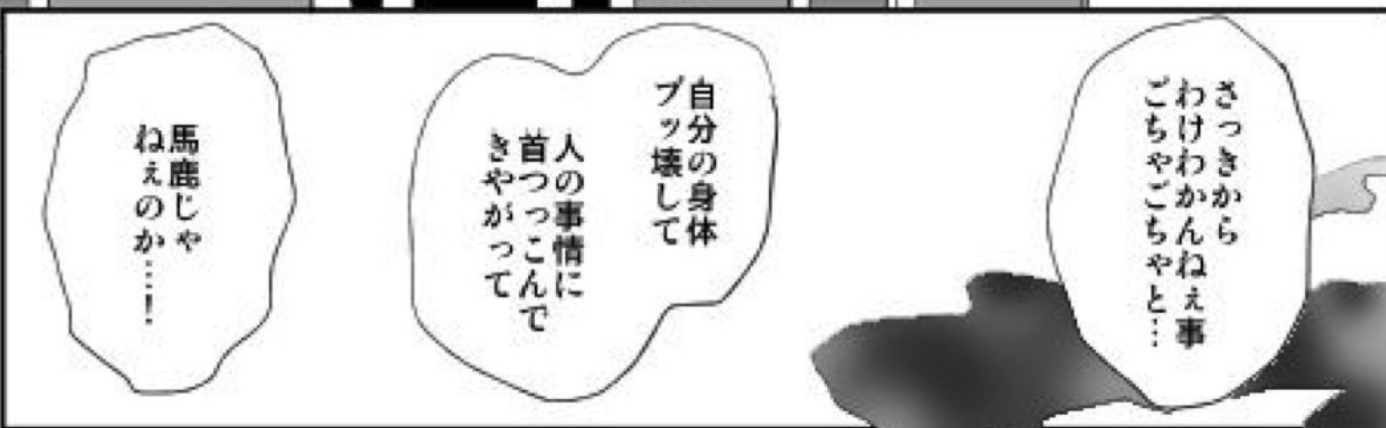


君が何度僕を
追い出したって



何なんだ...

おまえは.....



さっきから
わけわかんねえ事
ごちやごちやと...

自分の身体
ブツ壊して
人の事情に
首つつこんで
きやがって

馬鹿じゃ
ねえのか...!



ふざけるな



ヒーローだ……

俺だって



届け

忘れるな





憎むほど君は　その力を愛してる



まだ絶対安静
なんでしょ



おまえに
会わず…

顔がない



僕の目が覚めるまで
ずっと看病して
くれてたんだって？



こんな所にいたら
叱られるよ



おまえにも散々
酷い事をして……

飯田が泣きながら
礼を言うんだ

俺の傲慢が招いた
結果だというのに



ちなみにそれって
どれくらい……



轟くん

あの

九

まさか

覚えてたり
するの……？



君達も……



ほとんど
ぜんぶ

ガタッ

ぜんぶ!?



話が違います
タイムリープ！

あやふや
だって
言ったのに!!

いやでも
全部って
どのぜんぶ？

全部の全部!?

あああ

ああ

ああ

ああ



緑谷
悪かった

轟くん!
どうしたの
顔あげてよ

それとも
具合悪い?

やっぱり
病室に
戻ろうか

お前が意識を
失ってる間
ずっと考えてた

親父の事
お母さんの事

ヒーロー殺しの
言葉

冬美とも
話をして

どれだけ自分
小せえんだって
情けなくなつた





ずっと
眠ってる君しか
見てなかったから…



保須での傷も
良くなつたね
頑張ったね
轟くん

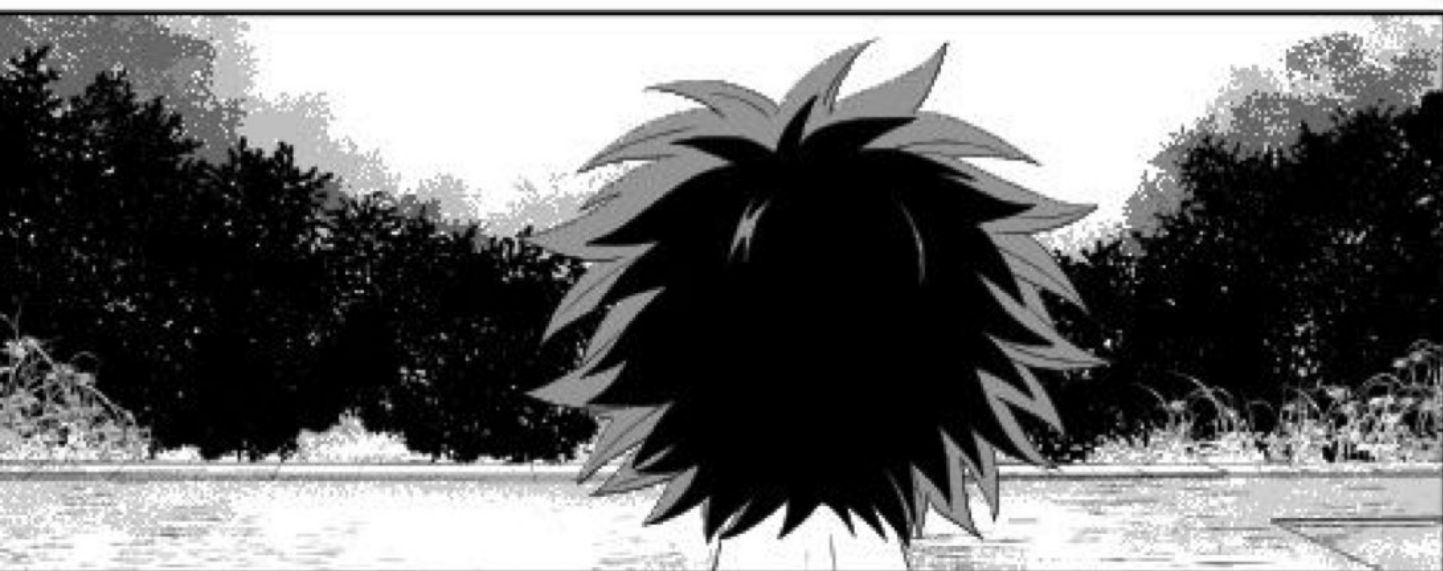


戻って
これて

本当に
良かった……っ



ありがとう





え……っ

泣いてた

詮棄したい
わけじゃない
んだけどっ



お帰り轟くん

悪イ
待たせた

ううん

……えーと
あの、
どうだった？



ガキ頃みたいに
抱きしめて
くれたよ



泣いて
謝るんだ

何にも捉われず
前に進んでほしいと

なりたい自分に
なれほしいと
言ってくれた





腹減ったな
緑谷この後
予定あるか？

—っ

だったら…

特にないよ
どっか
寄ってく？



しょーん

ん



轟家容赦ねエ
えええええええ



ドドドド
ドドドド



そりやそうだよね
事件解決数
史上最多!

カ
ラ
マ

ただいま

高額納税者
トップリスト
常連エンデヴァー
の家なんだから

あたり前だ
当たり前
なんだけど

これ家なの?
家なのかな?

もうすでに
屋敷と言うか
城と言うか

規模が非常識
すぎて理解
できない



焦凍!

あんたさっきは
急に飛び出して

……って
緑谷くん!

冬美さん
こんにちは

友達
連れてきた

突然お邪魔
してすみません

腹減ってたんだ
何か喰うもん
ある?

いらっしやい!
焦凍と一緒に
だったのね

え?何も
食べてないの?



あんた連絡一本
くらい寄こしな
さいよ!何か
用意できたのに

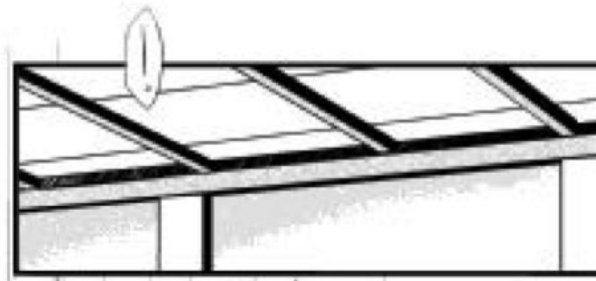
すぐ部屋行くから
簡単なモンで
いーよ

轟くん
お姉さんには
こんな話し方
なんだ

あんたがよくても
緑谷くんは
よくないの!

あのっほんと
おかまいなく!

楽しそう





途中から…
散々おまえを
泣かせちまったけど

……
あの時——

同じ時空に飛んで
混乱したんだ

君の眼に
耐えられなかった

まるで僕を…

汚いものでも
見る様に
軽蔑したでしょ？

それが
耐えられなくて

君の視線を
「拒絶」した

軽蔑なんて
してねえ

あの時はおまえも
俺が好きなんだと
勘違いしてたから

勝手だけど
裏切られたん
だって思った

勘違いじゃない





俺もお前が
ずっと好きだった



つらい思いさせて
悪かった

むけられる笑顔が 今はごんなにも違う



緑谷
もうちょっと

け

すあ

す



うんうん...



もって、
もってして
轟くん

うんうん...

おれ



轟くん

とまん
ないよ...



こっの
馬鹿!

—っ!!

あ...

つとに...!!
勘弁しろよ

はあ

うん

うん

終わらせて
やれねえだろ……!

引き続き敵組と
ヒーロー組に
分かれて

住宅街
模擬演習を行うぞ
次の組み合わせは……

緑谷・飯田組

VS

轟・麗日組!

遠慮はしないぜ

勝負だ
デクくん!

もちろん!

リベンジさせて
もらうぞ轟くん

対人戦闘訓練

開始!!

熟れた世界の音を聞かせて

END

20160812「熟れた世界の音を聞かせて」
哀歌エレジー*古田千敏*TODOROKIxIZUKU#02

*無断転載・複製・不正アップロードを禁止します

*2次利用規約に準じ参考にさせていただきました
タイトル:ブラックジャックによろしく / 著作者名:佐藤秀峰 / サイト名:漫画on web

